

令和4年度
第1回 大館市木材利用推進会議

会議録

令和5年3月24日（金） 11時～

大館市役所402会議室

令和4年度 大館市木材利用推進会議 名簿

区分	所属	職名	氏名
委員長	産業部	部長	畠山 俊英
副委員長	建設部	部長	伊藤 良晋
委員	総務部	部長	日景 浩樹 ※欠席
委員	市民部	部長	成田 学
委員	福祉部	部長	菅原 弥生
委員	観光交流スポーツ部	部長	阿部 拓巳 ※欠席
委員	教育委員会	次長	成田 浩司
アドバイザー	秋田県立大学木材高度加工研究所	所長	高田 克彦
説明者	比内総合支所	支所長	佐藤 正昭
	比内総合支所	支所長補佐	川上 太
事務局	産業部林政課	課長	小棚木 信晴
	産業部林政課	課長補佐	菅原 純
	産業部林政課木材産業係	係長	大澤 洋
	産業部林政課木材産業係	主任主事	千葉 泰生
	建設部都市計画課営繕係	係長	久保田 武人

1 開会 委員長あいさつ

＜畠山委員長（産業部長）＞

- ・大館市木材利用促進計画では、市が率先して公共建築物等における木材利用を推進すると共に、民間団体の協力を得ながら地元産材の利用促進を図ることとしている。
- ・本日は、その大館市木材利用促進計画における市の取り組み状況について、並びに木材利用促進法の改正に伴う「大館市木材利用基本方針の改正素案について」の2点について意見を伺いたい。

2 大館市木材利用促進計画の取組状況について

① 対象施設毎の工程表の更新について

② 令和5年度以降の木材利用促進計画に基づく公共建築物の整備について

③ 計画に対する施策の到達状況について

④ 林政課における取組状況について

＜事務局（大澤、千葉、比内総合支所 川上）＞

～資料1に沿って説明～

＜畠山委員長（産業部長）＞

- ・北分署について、施設の目的上RC造になることやペレットの導入が難しいのはわかるが、内装木質化はフルに使っても1㎡にしかならない？

＜事務局（久保田）＞

- ・建築基準法上の内装制限により使えるところが限られてしまう。その中でできる限り木質化してもそんなにボリュームは出ない。

＜畠山委員長（産業部長）＞

- ・備品関係は？さっき報告にDLTのテーブルなどもあったが、備品関係はこれから選定か？

＜事務局（久保田）＞

- ・テーブルなどの備品は工事に入っていない。消防で検討していると思われる。

＜成田委員（市民部長）＞

- ・DLTブースが非常に好評とのことだが、他の部署への導入予定は？

＜事務局（千葉）＞

- ・今回は林政課（三の丸庁舎）に置いたが、一番人目に触れる本庁への導入を目指し庁舎管理担当者と相談している。来年度も補助事業（提案型）に採択されれば可能な範囲で導入したい。

＜伊藤委員（建設部長）＞

- ・これ（DLTブース）の値段は？

＜事務局（千葉）＞

- ・ブースが約300万円。モクキューブが約80万円。

＜畠山委員長（産業部長）＞

・高田先生から何かございますか？

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 所長 高田 克彦 氏＞

・こうしていろんな部署をまたいで木材利用に取り組んでいるのは心強い。全国的に見てもこうして計画を立てて着実に実施しているところは少ない。実際に木を使うとなると障害が多く、さっきの消防署の件みたいに「使いたいけど機能的に無理」ということもある。

・木材はインシャルコストが高いが、実は公共事業に木材を使ったときの地元への経済波及効果をうちの研究所で検証したところそんなに悪くなかった。「安い方が良い」という風潮に対し、インシャルコストだけじゃなく地域全体のお金の循環で理解していただくといいかもしれない。むしろ市民から「もっと木材を使ったほうが良い」という声が出ることを期待している。

3 大館市木材利用基本方針の改正素案について

① 改正要旨

② 今後のスケジュールについて

＜事務局（大澤）＞

～資料2に沿って説明～

＜成田委員（市民部長）＞

・大館市ゼロカーボンシティ宣言の道筋となる「地球温暖化対策実行計画」を環境課で策定しているが、それともマッチした非常にいい素案。

＜畠山委員長（産業部長）＞

・高田先生から何かございますか？

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 所長 高田 克彦 氏＞

・いろんなことを考えて作られているのがいい。ただ、改正前の「第4 地元産材の利用推進」を改正後には「第5 木材の利用推進」としているが、その意味は？

＜事務局（大澤）＞

・広く木材利用を推進するため木材全般に枠を広げたもの。

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 所長 高田 克彦 氏＞

・別に悪いということではないが「地元産材をどうやって使うか」というのは自治体として非常に重要なこと。文言の変更はともかく、地産地消・地産外商の両方を視野に入れ、森林の管理・利用を引き続き進めていただきたい。

・「地元」は大館市だけじゃなく近隣市町村も含む、という捉え方もあるので正しい改正とも言える。引き続き地元産材の利用促進をお願いしたい。

～閉会～